



# 子供が自立し

# みんなの活躍で創り上げる学校



主体性

自律性

協働性

校長 島 章人

## メダカが暮らしやすい環境を!そしたらセミの声!

5年生理科の「メダカの授業」をきっかけに、校長室裏の空きスペース（ベランダ?）に、メダカの池を設置しました。池と言っても、大きなたらいに水を張っただけですが。そこに長洲中の先生からいただいたメダカを泳がせています。涼しげです。子供たちに生き物を育てる体験を通して自然に目を向け親しんでほしいという思いから、「メダカが暮らしやすい環境を整えよう!」と呼びかけ、数人の子供たちと一緒に、末川先生からいただいた「稲」の苗を植えることにしました。できあがり、下の写真!

そんな時、6年生の男の子が「あっ!セミ!」と言うのです。「セミじゃなくて、メダカだし!」と思っていると、「セミの声!今年初めて。」と言います。確かに、駐車場付近からセミの音がします。子供たちは十分自然を感じる感性を持っています。「自然に親しんでほしい」という上から目線の自分自身を恥じつつ、「もう夏だね。」と言いました。



## 学校運営協議会 お世話になりました

6月19日に万田小学校第2回学校運営協議会を開催しました。各委員会の代表が、これまでの活動の報告を行ったり新たな提案を行ったりしました。それに対して、各委員からご意見をいただくことができました。

「図書館の本をたくさん読んでもらうために、たくさん読んだ人を調べて表彰する。」という子供たちの提案に対して、委員から「あまり本を読まなかった人が肩身の狭い思いをしないようにしてほしい。」と意見が。「たくさん本を読んだ人が、面白かった本を紹介する。」にしてはどうか?と新たな提案も生まれました。



荒尾市都市計画課から依頼があり、荒尾駅と一体となった新たな中心拠点づくりに、子供たちの意見が反映されることになりそうです。

先日、5年生が市の担当者とともに、万田小~荒尾駅~スマートタウンまで歩いて、バリアフリーについて意見を言いました。

「雨の日は道路に水がたまり、車が跳ね上げてびしょ濡れになる」「草が生い茂る時期は、それを避けて通るため道路にはみ出してしまおう」など、普段通学で使っている子供たちならではの困り事を伝えました。

バリアフリーと言えば、万田小の昇降口は、段差がなくバリアフリーになっています。とても良いことなのですが、どこからが内で、どこからが外かがわかりにくいのも事実です。加えて、砂や泥が昇降口の中にまで上がってきますし、ダンゴムシもバリアフリーで入ってきます。よく見ると、校長室の床にも複数のダンゴムシが這っています。「こんにちは、さようなら。」と言って、外に出すようにしています。「人に優しく、虫にも優しく」が信条です。



荒尾駅前で気付いた点を書き込む児童

同地区バリアフリー基本構想の策定に当たり、これまで2回の協議会が開かれたほか、5月20日には障害者、高齢者、道路管理者らがまち歩きで、地区に潜る「バリア」を点検した。その中で、児童が通学路として利用する道路について、同地区の児童が「ここは歩道に水がたまると濡れる」と指摘し、また「ここは草が生い茂ると通るのが大変」とも指摘した。児童の意見は児童会の意見も反映して作成され、秋ごろの公表を目指している。(河野美緒)

# バリアフリーに生かして

## 万田小児童まち歩き点検

「JR荒尾駅周辺地区のバリアフリー化に向け、小学生の視察生かそうと、荒尾市は万田小学校の5年生43人に前出授業を行い、3日にまち歩き点検を実施した。児童は誰もが暮らしやすいまちにしたいと、普段歩いている道に潜む危険なところを指摘した。

同地区バリアフリー基本構想の策定に当たり、これまで2回の協議会が開かれたほか、5月20日には障害者、高齢者、道路管理者らがまち歩きで、地区に潜る「バリア」を点検した。その中で、児童が通学路として利用する道路について、同地区の児童が「ここは歩道に水がたまると濡れる」と指摘し、また「ここは草が生い茂ると通るのが大変」とも指摘した。児童の意見は児童会の意見も反映して作成され、秋ごろの公表を目指している。(河野美緒)

の不便な歩道の良いまちにし、必要があることし、段差は道幅など、まち歩きの際に目すべき点を伝えたい。

第2回の授業で実際にまち歩きを行った、同校から同駅へと向かった後、南新地地区にも足を延ばした。児童からは「横断歩道の線が消えかかっている」「腐っている木がある」「街路樹の根っこが盛りに上がっている所がある」などの声が上がった。浮島児童(10)は「歩道に水がたまると濡れる」と指摘し、また「ここは草が生い茂ると通るのが大変」とも指摘した。児童の意見は児童会の意見も反映して作成され、秋ごろの公表を目指している。(河野美緒)

荒尾